



アオリイカ仕掛け例

Tackle Guide

多くの釣り道糸は細いほど潮の抵抗を軽減し、有利に働くものだが、この釣りではハリが4〜5号と太いため、細いPEだと根掛かりした際に中オモリのPEだと根切ってしまう可能性が高い。おすすめは1.5〜2号。このサイズならカンナが伸びたり、根のほうがちぎれて、被害も最小限で抑えられる可能性が増す。

▼2キロに迫る大型も上がった



乗りがきた。しかし、船長のタモに収まったのは大型のスマイカ。このころには風も変わり、南風がやや強めに吹いてきた。その後も西へ西へ進みながら探索を続けていく。10時過ぎ、平塚沖で左舷のミヨシにきたのはカミナリイカ。船はさらに進んで大磯沖へ到達。11時、左ミヨシとトモが同時に乗りをとらえた。ミヨシで取り込まれたのはスマイカで、トモではようやく本命のアオリイカが顔をを出す。それもこの時期らしいサイズで、すぐさま検量するとデジタルスケールは1.8キロを表示した。5分後、またも左ミヨシの竿が曲がり、今度は11キロのアオリイカがタモに入る。

11時40分には右トモで特大カミナリイカ、その10分後には左ミヨシでスマイカが上がる。船長によれば、急に潮が動き始めたタイミンがらしい。しかし、せっかく流れ始めた潮も1時間ほどで止まってしまい、結局、沖揚がりの13時までには釣果を追加することはできなかった。船中では11キロと1.8キロのアオリイカが2杯に中大型のスマイカ、カミナリイカが6杯。そのほとんどが潮が効いていた1時間に集中したことになり、この釣りでいかに潮の流れが重要なかを実証する結果となった。今後、相模湾のアオリイカ



▶交じるスマイカも良型が多い

船宿information

相模湾腰越港
蒼信丸
☎0467-91-0323
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=アオリイカ乗合一人1万円(泳付き)
▶備考=5時半集合。スポットでマルイカへも。貸し道具常備。駐車場1台700円



船長 関塚 一浩

は乗っ込みを迎える。早い年で4月中旬〜下旬、例年だとGWごろに始まり、7月ごろまで続く。2キロ超えはもちろん、3キロ級も望める夢のようなチャンスだ。水深13〜15メートルの浅場で練り広げられる、特大サイズとのスリリングな攻防に期待したい。



▲これで1キロ級。裏側から見るとアオリイカの胴回りの太さに驚く



▲この釣りは乗りが速い。流しも一定のペースでジャクリを繰り返す。耐力が欠かせない

時代は長竿!?
5時半の集合時間には7人のお客さんが顔をそろえた。平日のわりにはけっこうな賑わいだらう。ここ数日の釣果は平均すると船中3〜4杯。おそらく半数近くの人がオデコに終わっている計算になる。それでもこれだけの人が足を運んでいるのだから、この釣りの根強い人気がある。定刻6時のちよっと前、関

この釣りでは海底からタナを取らせる船長と、海面からのタナを指示する船長がいるが、関塚船長は後者のようだ。合図が出たら、餌木、中オモリの順で投入する。仕掛けを絡ませないコツは、餌木と中オモリを離しハリスを張った状態を作ること。具体的には餌木を正面に投げ、中オモリを手前に落とせばいい。ジャクリを始めてあることに気付く。この日、大昔に購入した全長1.5メートルのシャ

3月30日、相模湾腰越港の蒼信丸へ、アオリイカを釣りに出かけた。釣り方は流行のティップランではなく、中オモリを使った昔ながらの餌木ジャクリ。この釣りを四季のレパートリーに入れてある船宿はけっこうあるが、多くは秋のシー

ズンのみに限られている。主に初夏のころ孵化したイカは、秋には釣りの対象サイズに成長する。人間にたとえれば中高生くらいか。この時期のアオリイカは食欲旺盛だから、比較的手軽に数釣りも可能。しかし、冬になると深みに落ち、低水温の

影響で活性も下がるので、釣るのはやや難しくなる。そして、春になると産卵のため浅場に移動してくるわけだが、このころには大半が1キロオーバー、中には2キロを超える個体まで出てくる。つまり、秋は数、春は大型狙いの時期となる。当然、春

餌木ジャクリでズシッと爽快 乗ればデカイぞ春アオリイカ

相模湾腰越港発 ↓ 江ノ島 大磯沖
フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kurube

知得! Tips and Tricks 餌木選び考

指示されたタナでひたすらジャクリを繰り返す、比較的単調な釣りだけに、やはり気になるのは餌木の選択。一昔前の定番カラー、ピンクとオレンジは今も健在ではあるが、潮が澄んだ条件下ではパープルやブラウンなどの地味系に分があるケースが目立つという。また、大型狙いの時期だけに、餌木は4号が標準となるが、さらなるアピール力を発揮する4.5号が有効なこともあるし、反対にイカの警戒心が高いときは3.5号に落とすとよく乗ることもある。



▶釣るときは船長に必ず餌木の重さを聞くのが一番

は釣果のムラが大きく、型見ずに終わることも珍しくないため、出船を控えるところも多くなる。よって、この時期にアオリイカ乗合を出しているのは、かなりの覚悟とこだわりを持った船ということになる。

まずは航程数分、江ノ島の南側で釣り開始となる。「やっってください、タナは32メートルです」この釣りでは海底からタナを取らせる船長と、海面からのタナを指示する船長がいるが、関塚船長は後者のようだ。合図が出たら、餌木、中オモリの順で投入する。仕掛けを絡ませないコツは、餌木と中オモリを離しハリスを張った状態を作ること。具体的には餌木を正面に投げ、中オモリを手前に落とせばいい。ジャクリを始めてあることに気付く。この日、大昔に購入した全長1.5メートルのシャ